

## 過去の大災害時の対応と集団的自衛権

JJ1SXA/池

平成 7 年の阪神淡路大震災、アメリカは空母インディペンデンスを神戸沖に派遣しようとしたが、当時の村山富市首相が断った、これが救助救援活動を遅らせた、革新系の神戸市長も自衛隊に災害派遣要請をためらい、救助救援活動を遅らせている、被害の拡大は計り知れない、総理大臣および市長の人命に関わる犯罪であるとも言えるのでは無いか？

平成 23 年の東日本大震災、菅直人総理は、混乱している現場に乗り込み、原発事故の初期対応を大幅に遅らせた、パフォーマンスに過ぎない、一方、孤立した気仙沼の大島は、地震から 2 週間以上見捨てていた。

地震発生時にはカンボジア海軍との合同演習のためにシアヌークビル沖にいた米国の強襲揚陸艦エセックスが、乗り込んでいた沖縄のキャンプハンセンに基地を置く第 31 海兵遠征隊を乗せたまま急遽シアヌークビル沖から気仙沼に急行し大島に向かい、3 月 27 日に初めて救援部隊が上陸した。

菅内閣は、何故もっと早く、ホーバークラフトを搭載した「おおすみ」に救助隊員と物資を乗せて大島に向かわせなかったのか？安部内閣は、伊豆大島やレイテ島に「おおすみ」を直ぐ派遣し、救助・救援に当たらせた。

被災から 72 時間以内の救助が生きるか死ぬかを分ける、まさに、一刻を争うのだ、陸路近づけない孤立地域には、空挺降下しか無い、精強な空挺団に、孤立した被災地への空挺降下(ヘリボン)による救助活動をさせるという検討もしなかった。

これらを考えると、菅直人総理(当時)の責任は、村山富市総理(当時)よりも重いと言える。…以上、西村真悟の「真悟の時事通信」を参考にした。

こうして見ると、時の政権が、米軍や自衛隊と距離をおいたため、大災害時にとんでもない間違いを冒した、事は人命に関わっている、間違えましたでは済まない、視点を変えれば、人道に対する犯罪だ。

今、集団的自衛権行使容認問題で与党内の論議が盛んのような、早い話が、反対の公明党をいかに説得するかと言うだけの話、実の無い論議に過ぎない。

4 月 12 日の産経抄は、「保有すれど行使せずとおめでたいことを言っているのは、世界広しといえども日本しかない。与党はくだらない論議にさっさと区切りをつけ、経済対策に全力を傾けるべきである。」と書いている。

「おめでたいことを言っているのは、公明党」、自民党は説得するより、連立解消を考えた方が良いのでは無いか？現在、日本がおかれている安全保障環境は、切羽詰まった状況、国家・国民を守るためには、今何を為すべきか、優先順位を考えているのか？災害時の救助救援活動の遅れよりもっと重大な事が待ち受けている、公明党は政権与党にいる資格は無いのでは無からうか？

(15.Apr.2014 記)